バハイ教育機関における理論と教授方法

サンドラ・フォトス

（要　旨）

４ヵ年計画は個々のバハイ信者、彼等の共同体そしてさまざまなバハイ教育機関の精神的発展を呼びかけている。「機関化プロセス」は、それ自身が新しい機関であるが、そのような多面的な進展に関して組織的かつ構造的なアプローチを提供している。国際教授法センターが構想しているように、「機関化プロセス」はかなり多岐にわたる活動から成っているがその目的は人的資源開発の長期プログラムを設定して実行に移すことであり、その第一歩は精神的な洞察力・知識・技術の創造に重点が置かれている。

相互作用に視点を置く考え方では、意味はメッセージのやり取りによって発達するものであり、これは協議や人間関係に関するバハイ文献に数多く見られる。

本稿では、「機関化プロセス」で用いられている相互作用に基づく教授法は学習を最大化することを示しているが、同時に、バハイ教育機関の理論と教授法を吟味するとともに、学習者の協力によって知識が創造されるような教育技術に注意を払っている。

「機関化プロセス」の相談し合うという特性は、アジア太平洋地域では特に適切なものであるとみなされている。

このようにして、「機関化プロセス」は能力の開発と道徳教育にとって新しいパラダイムを示すものである。